

古人の至言に「家の造りようは夏をむねとすべし（徒然草55段）」とあります。冬はしのげても、造りの悪い家屋の暑中は耐え難いと記されています。家屋は湿度の低い所に風通し良く造ることです。場所を吟味し風向きや日当たりの変化を調べ、夏に適した向きにします。これは牛舎にも共通で、暑熱対策の基本となります。さて、乳牛のストレスの原因はいろいろ考えられますが、暑熱はその最たるものです。図体がでかい乳牛は暑熱ストレスを被りやすく、その影響は平均空胎日数の増加や今回検定日の記録の乳量減となって表れます。特に酷暑の後に顕著に表れ、良質粗飼料給与などでフォローすることが大切です。乳期乳量は夏分娩が冬分娩より少なく、検定日と過去1カ年の比較でも夏の検定日の乳量や乳成分率は過去1カ年より低い場合が少なくありません。

（注）成績表の裏面に成績の見方をプリントしましたので、是非ご覧いただき検定成績を有効活用して下さい。

平成20年9月、10月 （社）家畜改良事業団電子計算センター